第6講 【中世編】イスラーム世界の形成と発展

PART5 インドとアフリカのイスラーム化

Chapter 1　インドと東南アジアのイスラーム化

目標
インドのイスラーム化はどのように進んだのだろうか。
東南アジアのイスラーム化の発端を理解しよう。

1 アフガニスタンのイスラーム王朝

7 世紀　北インドでは**ヴァルダナ朝**滅亡後，ヒンドゥー教諸王朝の分立時代が続く

8 世紀　インド洋交易の発展により，沿岸部では**ムスリム商人**が活動開始。

アフガニスタンを拠点とするイスラーム 2 王朝が西北インド侵入を繰り返す

10 世紀半ば　サーマーン朝のマムルークが〔　　　　　　　　〕をおこす

12 世紀　ガズナ朝から〔　　　　　　　　〕が自立

→イスラーム 2 王朝がインドのヒンドゥー勢力（ラージプート）を征服

12 世紀末　ゴール朝が北インド支配の基礎を築く

2 インドのイスラーム王朝

①〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕：デリーを首都とする 5 つのイスラーム系王朝の総称

A　〔　　　　　　　　〕（1206 年～ 1290 年）：インド最初のイスラーム王朝

あ　トルコ系マムルーク出身の〔　　　　　　　　〕がゴール朝から独立

い　デリーにインド最古のモスクである**クトゥブ = ミナール**を建てた

B　**ハルジー朝**（1290 年～ 1320 年）

→金納・直接納税などの税制改革を実施し，南インド遠征により支配地域を拡大

C　**トゥグルク朝**（1320 年～ 1414 年）

D　**サイイド朝**（1414 年～ 1451 年）

E　〔　　　　　　　　　　〕（1451 年～ 1526 年）

→この王朝が滅ぼされてムガル帝国が成立

②ヒンドゥー教の支配層を存続させたインド支配

A　イスラーム改宗の強制はなかったが，ムスリム商人やスーフィーの活動により，一部

でイスラームへの改宗も促された

B　ヒンドゥー教とイスラームは敵対することなく，北インドの社会に浸透

3　マラッカ王国と東南アジアのイスラーム化

①ムスリム商人

８世紀頃から〔　　　　　　〕と呼ばれる帆船で，東南アジアから中国沿岸まで進出

②中国商人

９世紀〔　　　　　　　　　〕と呼ばれる帆船で，南シナ海交易に直接参加

→マラッカ海峡やマレー半島，スマトラ島沿岸の港市国家を中心に，東南アジアは**香辛料**などの特産品を巡ってさまざまな国や地域の商人たちで栄えた

③イスラームとその文化の広がり

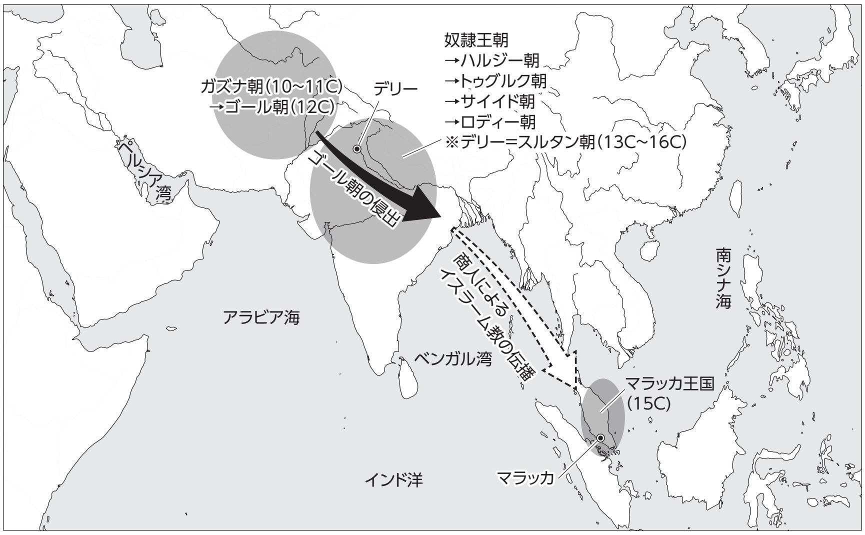
13 世紀末　ジャワでは，中国・元の侵攻を排した後にヒンドゥー教国の**マジャパヒト王国**がジャワ全島からスマトラ島東海岸までの海上交易を独占

15 世紀初め　**マラッカ王国**が明の永楽帝による鄭和の南海遠征の拠点となる

15 世紀半ば〔　　　　　　　　　　〕がイスラーム教に改宗し，インド洋・南シナ海・東南アジアを結ぶ海上交易の中心として栄えた

15 世紀末　スマトラ島にイスラーム国家である**アチェ王国**が誕生

16 世紀末　マジャパヒト王国滅亡後イスラームの〔　　　　　　　　　　〕が成立



アフガニスタン・インド・東南アジアのイスラーム王朝

まとめ　アフガニスタンのイスラーム王朝のインド侵入によりイスラーム化が進んだ。
マラッカ王国のイスラーム改宗により諸島部のイスラーム化が進んだ。

Chapter２　アフリカの古代王朝とイスラーム化

目標

西アフリカになぜイスラーム教が広まったのだろうか。
アフリカ東海岸でスワヒリ語が成立した背景を理解しよう。

1　ナイル川上流域の諸王朝

前８世紀頃　最古の黒人王国である**クシュ王国**がエジプト全土を支配するほど繁栄

前７世紀前半　アッシリアのエジプト侵入によりナイル上流（現スーダン）に後退

前６世紀　首都をメロエとして以降は**メロエ王国**と呼ばれる

→高い製鉄技術とナイル川の交易によって栄え，独自の〔　　　　　　　　　　〕を用いた

４世紀中頃　**エチオピア**（アビシニア）高原で栄えていた〔　　　　　　　　　　〕がナイル川上流に進出してメロエ王国を滅ぼし，キリスト教を受容

６世紀　アクスム王国はアラビア半島にも進出，紅海交易でインドやローマ帝国とも交流

2　西アフリカのイスラーム化と王朝

４世紀頃　西アフリカはラクダによるサハラ砂漠縦断が可能になり，地中海沿岸と結ばれた

→地中海からの物資とサハラ砂漠で採取される岩塩が西アフリカへ，西アフリカ産の金や象牙などが地中海沿岸へと運ばれて取引された（**塩金貿易**）

８世紀頃以前から　西アフリカのニジェール川流域におこった〔　　　　　　　　　　〕がサハラ縦断交易で栄える

８世紀　北アフリカからムスリム商人が訪れるようになり，ガーナ王国とイスラーム世界との塩金貿易が発展

11 世紀後半　**ムラービト朝**の侵入によりガーナ王国が滅亡

→西アフリカ一帯のイスラーム化が進む

13 世紀　ニジェール川上流域にイスラーム王朝の〔　　　　　　　　　　〕が建国される

→ニジェール川中流の首都〔　　　　　　　　　　〕は交易都市，イスラーム文化や学術の中心としても繁栄し,〔　　　　　　　　　　〕（在 :1312 年～ 37 年）の頃に最盛期を迎えた

15 世紀後半　マリ王国を滅ぼし，〔　　　　　　　　　　〕が成立

16 世紀　**トンブクトゥ**に黒人による初の大学が創設される

アフリカのイスラーム王朝

3 アフリカ東海岸の海港都市

アフリカ東海岸では古くからアラビア半島などと海上交易が行われていた。

→いずれの国もムスリム商人によるインド洋交易で繁栄

①インド洋交易

8世紀　ムスリム商人が**季節風（モンスーン）**と**ダウ船**を使ったインド洋交易を活発化させ，金や香料，象牙などが輸出された

A　ムスリム商人たちは〔　　　　　　　　〕，**モンバサ**，**ザンジバル**，**キルワ**などの港市に居留地をつくった

B　現地のバントゥー系言語とアラビア語が混交して共通語の〔　　　　　　〕語が，黒人文化とイスラーム文化が融合して**スワヒリ文化**が生まれた

※商業語として成立したこの言語は，現在でもケニア，タンザニア，ウガンダの公用語となっている。

②〔　　　　　　　　〕王国

13世紀頃　スワヒリ文化圏よりさらに南方のザンベジ川流域で**グレート・ジンバブエ**が栄えた

14世紀頃　グレート・ジンバブエ衰退後に王国が成立し，栄える

まとめ　西アフリカとイスラーム世界はサハラ砂漠を縦断する塩金貿易で結ばれた。
アフリカ東海岸の言葉とアラビア語が融合してスワヒリ語が形成された。

第 6 講 PART 5　確認問題

1 12 世紀にアフガニスタンを拠点とするガズナ朝から自立して，インド侵入を繰り返したイスラーム王朝はどれか。

① サーマーン朝　② カラハン朝
③ ゴール朝　④ ヴァルダナ朝

2 13 ～ 16 世紀にデリーを首都として続いた 5 つのイスラーム系王朝の総称はどれか。

① 奴隷王朝　② デリー = スルタン朝
③ ローディー朝　④ ハルジー朝

3 15 世紀末からスマトラ島の港市国家として発展したイスラーム王朝はどこか。

① アチェ王国　② バンテン王国
③ ジョホール王国　④ マタラム王国

4 15 世紀初めの鄭和の南海遠征後に，東南アジアで最初の本格的なイスラーム国家となって発展した国はどこか。

① シュリーヴィジャヤ王国　② マジャパヒト王国
③ マタラム王国　④ マラッカ王国

5 4 世紀にエチオピア高原からナイル川上流に進出して紅海交易で栄えた国はどこか。

① クシュ王国　② メロエ王国
③ アクスム王国　④ エチオピア王国

6 ８世紀以前からサハラ縦断交易で栄え，その後ムスリム商人との塩金貿易で繁栄した国はどこか。

① ガーナ王国　② カネム王国
③ コンゴ王国　④ ルンダ王国

7 13 世紀に建国されたイスラーム王朝のマリ王国の首都で，交易やイスラーム文化の中心としても繁栄した都市はどこか。

① アルジェ　② アシャンティ
③ トンブクトゥ　④ チュニス

8 アフリカ東海岸の海港都市で現地の言語とアラビア語が混交してできた言語はどれか。

① ベルベル語　② アムハラ語
③ ソマリ語　④ スワヒリ語

第6講　PART5　確認問題 解答

1 解答：③　12世紀にガズナ朝から自立した**ゴール朝**はインド侵入を繰り返した。

2 解答：②　300年以上にわたるデリーを首都とした5つのイスラーム系王朝は**デリー＝スルタン朝**と総称される。

3 解答：①　15世紀末にスマトラ島の**アチェ王国**はイスラーム王朝として成立して発展した。

4 解答：④　**マラッカ王国**は中国（明）の鄭和の南海遠征後，15世紀半ばに東南アジアで最初の本格的なイスラーム国家となった。

5 解答：③　4世紀にナイル川上流に進出してメロエ王国を滅ぼし，紅海交易で栄えた国は**アクスム王国**である。

6 解答：①　西アフリカの**ガーナ王国**は北アフリカのイスラーム化後，ムスリム商人との塩金貿易で繁栄した。

7 解答：③　マリ王国の首都である**トンブクトゥ**は交易やイスラーム文化の中心として繁栄した。

8 解答：④　**スワヒリ語**はアフリカ東海岸で現地の言語とアラビア語が交じり合って成立した。